

西宮RC北山様、会員増強ゲストの川崎様、ようこそいらっしゃいました。

7月の第一例会のときは一回表のマウンドの上にいる気持ちでしたが、後半戦の第一例会は5回か終わりの0対0の緊張感を持った気持ちです。

というのもある会員に、12月の会長の時間は少し気がぬけた話になっていると注意をされ、後半戦も自分では気を抜いているつもりは無いのですが、精一杯走り続けたいと思っています。

今それを思い起こしますと、皆様に大きなチャンスをも自分に与えていただき、大機大有という言葉がありますが、この大きなチャンスを生かすも殺すも自分次第、うまく生かせれば大きく成長することが出来ますし、誤れば何も残らない結果になるということです。評価というのは自分でするものではなく、他人がするものです。6月の最後にどれだけ私のことを評価していただけるか楽しみに進んで行きたいものです。

「前のめり」という言葉があります。もとは前方に倒れそうに傾くことであまりよくない意味です。ところがいつ頃か、身体ではなく心を意味するようになり、積極的に物事に取り組むこと、前向きというプラスの意味で使われています。元の意味にこだわり続けるよりも、変化に対する柔軟な対応が欠かせません。変化を受け入れる姿勢こそが重要なのです。

今年、甲子園球場はベンチを改修しています。

最前列に「座席バー」をつけ、立っても良し、座っても良し、広島のマツダスタジアムやロッテのマリンスタジアムに導入されている大リーグ式に様変わりします。サインが見づらいという現場の要望があったといわれていますが、それ以上に最前列の選手たちが、「前へ前へ」と「前のめり」な姿勢になる、これが副産物といえます。

1987年近鉄に大物外国人として大リーグのホームラン王、オグリビー選手が加わりました。すでに38歳というピークは過ぎていましたが、野球に対する「姿勢」は超一流だったといわれています。

ベンチで猫背に座る選手たちの背筋を伸ばし、「こうやって座るんだ、これが戦う姿勢だ」と示したのが前のめりだったといわれています。

ロータリーは戦う集団ではありませんが、前へ前へという積極的な気持ちと、変化を受け入れる姿勢を忘れずに行動していきたいと思しますので、後半戦もよろしくご協力お願い致します。